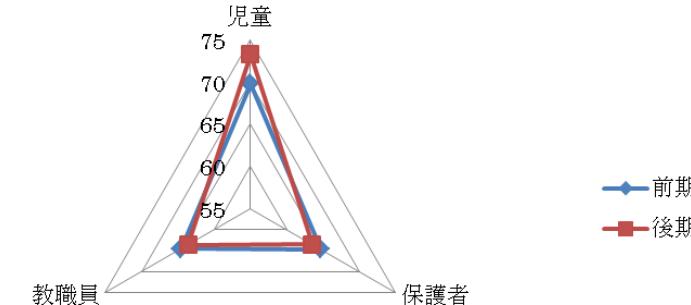


学校だより3月特別号『学校評価（前期・後期の結果）を振り返って』

後期に実施した学校評価の結果をまとめましたので、お知らせします。グラフのポイントは実現度「よくできている」「できている」を合わせたものです。

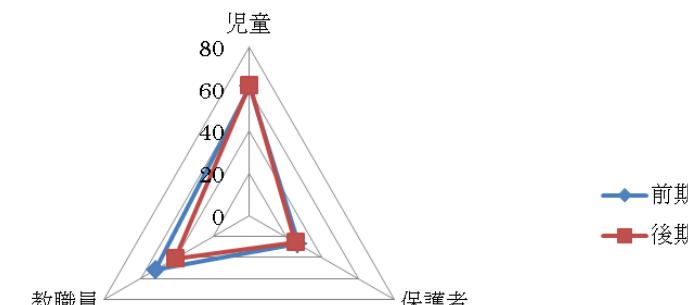
実現度について「前期」と「後期」の比較をしました。

家庭学習は、毎日（学年×15分程度）できている。



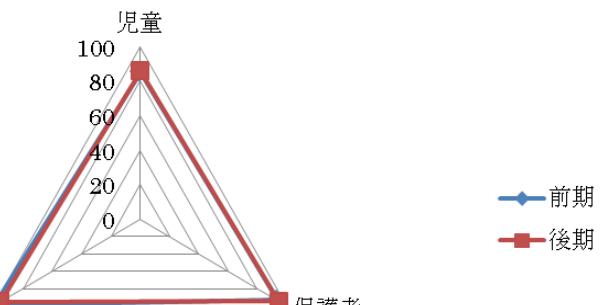
家庭学習への意識の高さは、前期とほとんど変わっていないが、児童における実現度は3.5ポイント(P)高くなっている。これは、学校から指定された課題とともに、学年が上がるごとに自分で課題を設定して取り組む「自主勉強」への転換を図ってきたことが、子ども達自身の取組意欲の向上にも良い影響を与えたものと思われる。今後も、具体的な学習方法や友だちの学習の様子を共有することでイメージモデルをつくり、見通しをもった取組を続けていきたい。

授業以外で1日あたり20分程度、本を読んでいる。



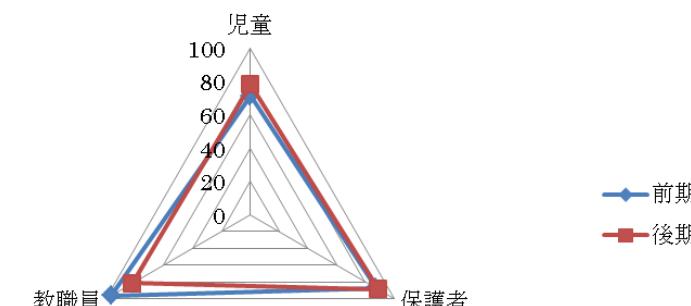
前期に引き続き高い重要度を示す一方で、実現度が低い。ただ児童の意識は、前期よりは約1Pだけが上昇していた。しかしながら、朝読書や休み時間などで「本」と接する時間を持つとする姿も少なくはない。図書委員会や図書ボランティア、図書支援員の働き掛けで、本を手に取ることや図書室の利用も若干増えている。「本」は、身近な存在であり、本と関わることで自分の興味関心の域を広げたり、学習意欲を高めたりすることができるなどを伝え、広めていく必要がある。

学校に行くことがたのしい。



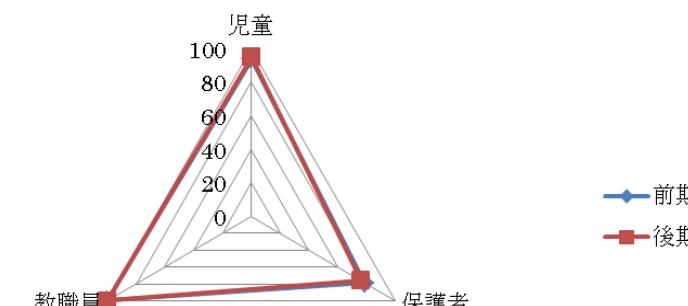
後期も、保護者・教職員・児童ともに重要度はとても高い数値が見られた。実現度では、児童よりも保護者の意識が高くなっているが、前期に比べて少しずつ学校での学習環境、生活環境、友だちとの過ごし方が改善されつつある傾向がうかがえた。ただ、児童の実現度は86P足らずなので、これからも意識して取り組んでいく必要がある。

「あいさつ」に関する質問



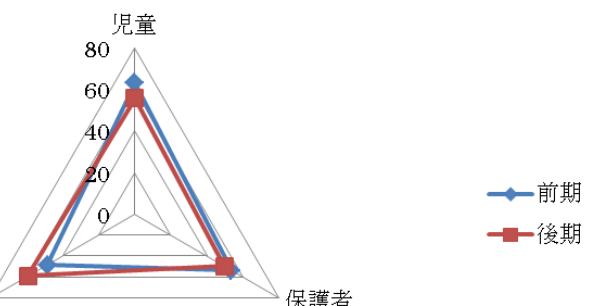
「あいさつ」に関する重要度は、後期も前期と同じくらいの割合で非常に高い。実現度については、保護者が1.4P上がり、児童は7Pも上昇し、大変嬉しい傾向が見られた。ただ、数値的には78.2Pであり、まだ2割の児童が「あいさつをすること」に対して何らかの抵抗感を持っている状況もあることがわかった。これからも、朝の登校指導とともに、元気の良いあいさつができるように働きかけていきたい。

「人を大切にすること」に関する質問



「人を大切にすること」に関する重要度は、後期も前期と同じでほぼ100Pに近い割合で高い数値が見られた。実現度については、保護者が約3P下がり76Pであったのに対して、児童は前期より少し上がり約95Pになった。今後、さらに子どもたちの意識を上げていくには、周りにいる大人たちが今以上に「人を大切にすること」を意識して指示していく必要があることを深く感じた。

地域やPTAの行事に参加している。



前期に比べて保護者の意識は0.5P上がったが、児童の重要度は90.3Pから78.4Pと随分下がった。実現度に関しては、児童も保護者もともに7~4P下がる結果となり、児童も保護者も50P前後の数値を示した。やはり今後は、子どもの周りにいる大人たちが意識して積極的にPTA・地域行事に参加する姿を見せていく必要があることを感じた。

重要度の集計結果から

前期と比べて、保護者の重要度に対する関心は「地域やPTAの行事に参加している」の項目以外は引き続き高い関心を示していたが、児童の関心は全ての項目において0.6Pから11.9P下回っていた。重要度の結果は、「取組を進めてほしい」という願いの結果であるとともに、学校としても「大切にしていること」、「指導に力を入れていること」への表れであると認識している。今回の結果から、児童と保護者・教職員との思いの差を少しでもなくしていくように働きかけをしていきたい。

実現度の集計結果から

前期と比べてみると、児童の実現度に対する意識は「地域やPTAの行事に参加している」の項目以外はすべて上昇している。特に「家庭学習」と「あいさつ」に関する項目においては、3.5~7Pも上昇していた。また「学校に行くことが楽しい」と「あいさつ」に関する項目においては、児童・保護者ともに上昇がみられた。ただ「人を大切にすること」と「一日20分程度本を読むこと」の項目においては、児童の意識は上がっているのに、保護者の子どもに対する意識は下がっている。この児童と保護者の意識のずれをなくしていく必要があると考えている。

重要度と実現度の結果から

「重要度」は、保護者の場合は「地域やPTAの行事に参加している」の項目以外は、前期とほぼ同程度に高い意識が見られたが、児童の場合は全体的に少し下がっていた。ただ「実現度」においては、保護者以上に児童の意識は全体的に上がっており、少しではあるが児童の前向きに改善しようという意識が見られた。今後は、前期と比べると大きな上昇が見られた「あいさつ」に関する項目ではあるが、まだ8割まで到達していない現状があるので「家庭学習」や「本を読むこと」、「地域やPTAの行事に参加すること」とともに、子どもたちに対して大切な意味を教え、働きかけをしていく必要があると考えている。